

令和4年度第8回霞ヶ浦自然観察会実施結果

日 時：令和4年11月19日（土） 9時～12時

テーマ：ぶらり 戸崎・川尻・崎浜―大地の成り立ちと人々の暮らし―

場 所：霞ヶ浦環境科学センター～戸崎地区～川尻地区～崎浜地区

講 師：矢野徳也先生（筑波山地域ジオパーク推進協議会 教育・学術部会委員）

内 容：

更新世後期（13万年前から1万年前）から完新世（1万年前から現在まで）の気候変動によって作られた台地や低地の地形をめぐって、台地を構成する地層や化石、低地の地形を丹念に観察し、それらを巧みに活かしてきた地域の産業や歴史を学ぶ。

参加者：23名

担当職員：5名

パートナー：6名

結 果：

霞ヶ浦環境科学センターで開会・オリエンテーションを行ったあと、バスで最初の観察場所である崎浜に移動しました。崎浜では、掘り下げ田、崎浜集落、カキ化石床を観察し、再びバスで川尻に移動しました。川尻のカキ化石床を観察したあと、川尻川の谷津を上流側に歩き、さらに台地の上って戸崎城址を観察しました。そのあと戸崎集落を歩きながら、城と集落の関係を観察しました。最後に戸崎の八坂神社で霞ヶ浦を一望した後、環境科学センターに戻りました。

観察会を通じて、普段何気なく見ている台地や低地の地形について解説していただくことにより、氷期と温暖期を繰り返しながら地球が作った様々な地形を理解するとともに、湖岸や谷津の地形を巧みに使って生きてきた地域の人々の知恵を学ぶことができました。矢野先生ありがとうございました。

主な観察地での観察の概要は以下の通りです。

○崎浜の掘り下げ田・・・湖岸の水田には乾いていて畑には湿っているという土地を短冊状に掘って水田をつくり、盛り上げて高くしたところを梨畑にするという土地利用を観察（現在はどちらも休耕している）。

○崎浜の集落・・・砂州にできた微高地に集落がある。

○崎浜のカキ化石床・・・13万年前からの古東京湾に生息したカキがこの化石床をつくった。縦に伸びるカキの塊は、その場所で成長したカキ床、横に伸びるカキの塊はいったん流されてたまったカキ床である。その後4万年前の氷期、6500年前の縄文海進を経て現在に至る。この場所に奈良時代に横穴を掘り墓をつくった。墓のつくりはカキがあるところとないところをうまく使っている。

○川尻のカキ化石床・・・植生に覆われて見づらいが、崎浜と同じ化石床がある。

○川尻の谷津・・・丘陵地が浸食を受けてできた地形を谷津という。谷（ヤツ）、谷戸（ヤト）ともいう。関東地方に多く見られる地形で、他の地域では珍しい地形。川尻川は近くの土浦協同病院付近が源流であるが、谷津には泥がたまっていてハス田に向いている。

○戸崎城址・戸崎集落・・・泥深い川尻川の谷津を自然の濠として利用した高台の城。1400年代に、小田氏の有力な家臣戸崎氏が居を構えたと云われている。城址の周辺には何本かの掘割が残っており、集落の配置は当時の面影を残している。

○八坂神社からの眺望・・・湖岸の海食崖の上に神社が位置している。対岸の土浦、阿見、牛久の地形がよく見える。川尻沖に砂利採取船が見えるが、湖底にたまった砂利を採取している。これは、現在桜川の流路にあった古鬼怒川が運んだ砂利である。

○環境科学センターの石棺・・・近くの戸崎中山遺跡から出土した石棺を移設したもの。古墳時代の石棺である。石材は雲母片岩という変成岩で筑波山の東側で採掘されたものと考えられている。

第8回霞ヶ浦自然観察会



崎浜の掘り下げ田の観察



八坂神社の境内で崎浜の集落の観察



崎浜のカキ化石床の観察



川尻のカキ化石床の観察



川尻地区の谷津の観察 谷津はハス田に利用



戸崎城址の観察



センター隣りの八坂神社から霞ヶ浦を望む



センター内の石棺の観察